

# 生徒理解を深める心理・適応 6 尺度の妥当性の検討

— 保健室利用生徒のプロフィールに関する検討 —

○清重友輝<sup>1</sup>・西本素江<sup>2</sup>・中塚善次郎<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>ひびきのさと人間精神学研究所・<sup>2</sup>徳島市城西中学校)

## 問題と目的

保健室を利用する生徒の中には、身体面だけでなく心理面の健康に問題を抱える者も多い。本研究では、心理・適応 6 尺度（西本・清重・中塚，2016）から得られたデータをプロフィールに描き、示唆された生徒の内面と具体的な生徒像との関係を見ることで、6 尺度の妥当性を検討する。

## 方法

調査対象 中学 3 年生 216 名のうち、保健室利用回数の多い生徒（年間 10 回以上）25 名。データ収集は 2016 年度に実施。

(1)保健室利用回数の多い生徒 25 名のプロフィールの平均値を出し、その特徴を見る。

(2)プロフィールを大きく 4 つのタイプに分け、保健室利用回数の多い生徒がどのタイプに属するかを見ることでおよその傾向を判断する。

(3)個別のプロフィールの内容と、養護教諭が行った生徒に対するコメントとの整合性を見ることで、プロフィールがどの程度正確に生徒の内情を表しているかを検討する。

## 結果と考察

(1)の結果は、図 1 に示す通りである。保健室利用回数の多い生徒は、各尺度の数値が全体的に低く、中でも 2 ストレスと 6 学校・教師適応の数値が特に低い数値を示していた。これは、学校生活になじめず、高いストレスを抱える生徒が、保健室を多く利用していることを示していると考えられる。

(2)については、まずプロフィールの特徴に応じて 4 つのタイプ分けを行った。「タイプ 1」は 1 内的自己確立と 4 他者・社会定位の数値がともに 60 以上（バランスのとれた安定タイプ）。「タイプ 2」は 1 と 4 のどちらかの数値が 60 以上で、両者の差が 20 以上 40 以下（自他のどちらかが高い標準タイプ）。「タイプ 3」は 1 と 4 のどちらかが 85 以上または 15 以下で、両者の差が 50 以上（バランスの悪い不安定タイプ）。「タイプ 4」は 1 と 4 がともに 59 以下（自他両方が育っていない未熟タイプ）。基本的には、タイプ 1>2>3>4 の順に精神的安定度が高いと考えられる。

タイプ分けに基づく保健室利用生徒の内訳は次の通り。タイプ 1・・2 名、タイプ 2・・5 名、タイプ 3・・8 名、タイプ 4・・10 名。全体的な傾向としては、タイプ 3 と 4 の多さが目立つ。これは不安定なタイプに属する生徒ほど、保健室を利用する機会が多いことを示すと考えられる。

(3)については、1 内的自己確立と 4 他者・社会定位の関係に示された、その生徒が何を支えとしているか（またはしたいと望んでいるか）という点と、3 家庭適応、5 クラス・仲間適応、6 学校・教師適応の数値に示された現在の適応状況、そして 2 ストレスの数値に示されたストレスの高低を総合的に判断することで、生徒の内情を推察した。これと養護教諭のコメントとの整合性を検討した結果、多くの事例で内容の一致が見られた。

女子生徒 A のケース・・保健室利用回数は 31 回。1 内的自己確立の数値が 99 と極端に高く、4 他者・社会定位は 38 と低い。タイプ 3 に属する。他の特徴として、2 ストレスと 3 家庭適応の数値がともに 1 で極端に低かった。これらの情報から、自分本位な性質で現状に高いストレスを感じており、その原因が家庭にあることが推察された。養護教諭のコメントには、他者との折り合いが悪く、特に母親との関係に問題が見られ愛情に飢えているとあり、プロフィールに示された内容と高い整合性を示した。



図 1 保健室利用回数の多い生徒 25 名の平均プロフィール